

# 「情報部」年間活動報告

## —最初の1年間を振り返って—

都市教養学部（理工学系）・教授  
伊與田 正彦

首都大学東京 FD 委員会が発足し、平成17年度から活動を始めたわけですが、新大学の基礎教育を作るという使命の基に上野基礎教育センター長以下（忙しくてあまりお手伝いできない私を除きまして）、皆さんががんばっています。そこで、この年間活動報告では、他の委員のレポートと一部重複するかもしれませんが、今年度の学内でのFD委員会の活動と学内部会のFD事業の概要を報告します。

全学の委員会活動としましては、他の委員会がまだほとんど動き出しておりませんでした5月26日に第一回の全学のFD委員会を開き、本学のFD事業の現状認識から始めて、活動方針を決めました。さらに、各部局の委員会も同時に活動を開始し、理工学系の場合ですと第一回FD委員会を6月13日に開催しまして、早急にその部局の体制作りもしました。都立大の理学部では、生物学科・物理学科・地理学科などがすでに「基礎・専門の講義を興味あるものにしよう」という活動に取り組んでいましたので、理工学系でのFD事業は今年度の4月の段階ですすでに発展段階にあったと言えます。

学内における今年度の活動で特筆すべき点は、本学の傾斜的研究費（全学分）に応募しまして、教育改善に関する部門でFD委員会の申請しました「首都大学東京のFDのシステム化と効率的推進のための基礎的研究」が採択されたことでしょうか。上野委員長と舛本直文委員長代理の努力で研究費を獲得することができ、その後のFD活動にはずみがつきました。今年度の学内におけるFD事業を以下に列記します。

- (1) 10月6日 第一回FDセミナー
- (2) 11月4日 第一回FD講演会
- (3) 2月23日 第二回FDセミナー
- (4) 前期の授業評価
- (5) 後期の授業評価
- (6) 学内各部会でのFD事業の取りまとめ



松岡信之先生によるFDセミナー講演

10月6日に開かれました第一回FDセミナーでは、(i) 国際基督教大学教授 松岡信之先生によるFDセミナー講演「FDの目指すもの—Developする課題は何か—」、(ii) 都市環境学部教授 星旦二先生による「都立大学の過去4年間2回の授業評価の継続分析の報告」、(iii) 舛本FD委員長代理による今年度前期の「都市教養プログラム」の授業評価の概要報告、および (iv) 今年度前期の「都市教養プログラム」の授業評価の中で、学生評価の高かった授業の報告が行われました。



第一回FDセミナーの受講者

内容が前後しますが、FD委員会として最初に取り組んだ事業は、今年度前期の都市教養プログラムの授業評価と基礎教育に関するアンケート調査です。都市教養プログラムにつきましては、どのような形に落ちつくのかという点が気でしたが、担当教員の方々のご努力で興味深い内容の講義が展開できたという結果が得られました。



第一回 FD セミナーの会場風景

第一回 FD セミナーで報告された「今年度の“都市教養プログラム”の授業評価の中で、学生評価の高かった授業」につきましては、第一回 FD レポートで紹介されていますので、ぜひ読んでいただきたいのですが、学生の興味をもつ授業を行うという「ある意味では当然の課題」に熱心に取り組んでおられる先生方の姿勢が見受けられます。

11月4日に行われました第一回 FD 講演会では、舛本 FD 委員会委員長代理による「基礎教育アンケート結果の報告」と桜美林大学大学院教授 田中義郎先生による「全入時代の大学教育：高校教育、大学基礎教育。学部専門教育の接続とFD」というお話があり、有意義な討論が展開されました。

前期と後期の授業評価に関しましては、今年度は傾斜的研究費を使ってスムーズに進めることができましたが、来年度以降は授業評価につきまして「ぜひ本学の基礎教育センターへの予算措置」が行われることを望みます。今年度後期の都市教養プログラム及び実践英語の授業評価と全学共通科目に関するアンケート調査の集計・分析はこれから始まりますが、前期と後期の受講者数の調整とか、非常に受講者の多い講義と少ない講義のアンバランスを出来

るだけ無くすなど、カリキュラムを組む場合の技術的な問題も解決されるべきと考えます。

学内各部会での FD 事業の取りまとめは、本レポートの「各部局 FD 活動報告」にまとめられておりますので、ここでは省略します。

最後になりますが、「学外のFD情報の収集と基礎的研究情報の収集」および「学会等への情報収集」につきましては、今年度の成果をもとに来年度にむけてぜひ発展させるべき課題であると考えます。また、このような活動に対しまして、基礎教育センターへのしかるべき予算措置が毎年されますように強く希望します。